

# NEWS LETTER

---

2020年8月27日  
一般財団法人岩手経済研究所

## 「いわて景気ウォッチャー調査」－2020年7月調査－について

一般財団法人岩手経済研究所（理事長：高橋 真裕）は、定例の「いわて景気ウォッチャー調査（2020年7月調査）」を実施しました。

本調査の結果は以下のとおりです。

現状判断 44.3

※前回（2020年4月）調査比30.0ポイント上昇

先行き判断 40.3

※同29.8ポイント上昇

本調査の概要は、別紙「いわて景気ウォッチャー調査結果－2020年7月調査－」のとおりです。  
また、詳しくは8月31日発行の当研究所機関誌「岩手経済研究 2020年9月号（No.454）」にも掲載いたします。

2020年8月27日

# いわて景気ウォッチャー調査

－ 2020年7月調査 －

盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号  
岩手銀行中ノ橋支店3階

一般財団法人 岩手経済研究所  
理事長 高橋 真裕

(担当 地域経済調査部 高橋 宏輔)  
TEL 019-622-1212

# ＜ 調 査 結 果 の 概 要 ＞

## 1. 県全体の状況

**景況判断は現状、先行きともに前回から大幅に回復したが、50を下回る**

### (1) 現状判断 ～前回から大幅に回復したが、50を下回る～

県内の景気の現状判断指数は、44.3と前回(14.3)に比べ30.0ポイント上昇し、2009年10月の調査開始以降最低水準となった前回調査から大幅に回復した。これは新型コロナウイルスの感染に係る緊急事態宣言の解除や外出自粛の緩和により売上高が増加してきたことなどが要因である。ただし、判断指数は景況感の分かれ目とされる50を9期連続(27カ月)で下回り、景気ウォッチャーは依然として景気の動きは弱いと感じている(図表1、2)。

回答構成比は「良くなっている」「やや良くなっている」が36.0%(前回4.0%)、「変わらない」は22.0%(同8.0%)といずれも増加した一方、「やや悪くなっている」「悪くなっている」が42.0%(同88.0%)と減少した。

分野別では、家計動向関連指数が48.1(同10.8)、企業動向関連指数が38.5(同20.8)、雇用関連指数は30.6(同22.2)といずれも前回より上昇した。

家計動向関連では、明るい兆しを示す回答が増加したものの、同ウイルスの影響で落ち込んだ売上げが回復していない状況が窺われる回答もあった。企業動向関連では、売上げの伸長を実感する声が聞かれた。雇用関連では、採用活動の再開の動きを示す回答がみられた。

地域別では、県央地域が47.7(前回13.2)、県南地域が41.9(同14.4)、沿岸地域が46.1(同20.3)、県北地域が38.9(同6.3)となった(図表5)。

### (2) 先行き見通し ～先行き判断も大幅に回復したが、引き続き50を下回る～

2～3カ月先の県内の景気の先行き判断指数は、40.3と前回(10.5)に比べ29.8ポイント上昇し、前回から大幅に回復した。ただし、先行きの不透明感などから9期連続で50を下回っている(図表3、4)。

回答構成比は「良くなる」「やや良くなる」が20.0%(前回3.0%)、「変わらない」は36.0%(同8.0%)といずれも増加した一方、「やや悪くなる」「悪くなる」は44.0%(同89.0%)と減少した。

分野別では、家計動向関連指数が42.5(同9.3)、企業動向関連指数は39.6(同12.5)、雇用関連指数は25.0(同13.9)といずれも前回より上昇した。

政府による「GoToキャンペーン」に期待を寄せる声や事業の多角化が奏功しているとの回答があった一方、7月に初めて本県で同ウイルスの感染が確認された影響を懸念する回答もみられた。

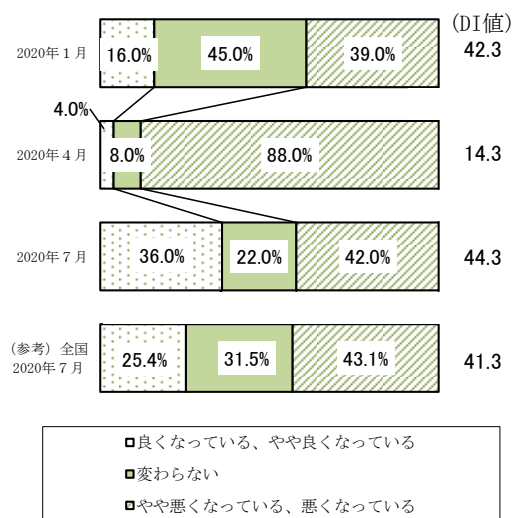
地域別では、県央地域が37.5(前回10.4)、県南地域が39.4(同10.0)、沿岸地域が47.4(同12.5)、県北地域が38.9(同9.4)となった(図表5)。

(ウォッチャーのコメントは参考1、調査要領については参考2をそれぞれご参照ください。)

図表1 景気の現状判断指数（DI）の内訳

分野	2020年 1月	2020年 4月	2020年 7月	増減
合計	42.3	14.3	44.3	30.0
家計動向関連	42.6	10.8	48.1	37.3
小売関連	41.7	16.3	50.0	33.7
飲食関連	44.6	1.6	57.1	55.5
サービス関連	42.1	8.3	43.1	34.8
住宅関連	43.8	42.9	37.5	△ 5.4
企業動向関連	39.1	20.8	38.5	17.7
雇用関連	47.2	22.2	30.6	8.4

図表2 回答構成比（現状判断）

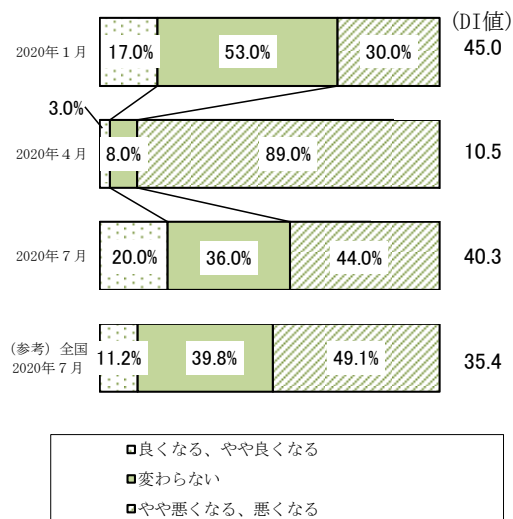


(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表3 景気の先行き判断指数（DI）の内訳

分野	2020年 1月	2020年 4月	2020年 7月	増減
合計	45.0	10.5	40.3	29.8
家計動向関連	43.4	9.3	42.5	33.2
小売関連	40.7	8.7	39.8	31.2
飲食関連	48.2	3.1	41.1	37.9
サービス関連	39.5	15.3	48.6	33.3
住宅関連	53.1	10.7	40.6	29.9
企業動向関連	44.6	12.5	39.6	27.1
雇用関連	58.3	13.9	25.0	11.1

図表4 回答構成比（先行き見通し）



(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表5 地域別の景気判断指数

地域	景気の現状判断指数（DI）				景気の先行き判断指数（DI）			
	2020年 1月	2020年 4月	2020年 7月	増減	2020年 1月	2020年 4月	2020年 7月	増減
合計	42.3	14.3	44.3	30.0	45.0	10.5	40.3	29.8
県央地域	35.1	13.2	47.7	34.5	50.7	10.4	37.5	27.1
県南地域	45.8	14.4	41.9	27.5	44.4	10.0	39.4	29.4
沿岸地域	51.4	20.3	46.1	25.7	36.1	12.5	47.4	34.9
県北地域	38.9	6.3	38.9	32.6	41.7	9.4	38.9	29.5

## 【参考1：景気ウォッチャーの主なコメント】

	分野	判断	判断の理由	
現 状	家計 動向 関連	やや良	特別定額給付金や夏のボーナスの支給などにより、高額な商品を購入する消費者が増えたため、売上げは増加した。（県央：燃料小売業）	
		やや良	4月はほとんど全ての団体の宴会がキャンセルとなったが、7月は予約が若干回復し、売上げも増加した。（県北：飲食業）	
		やや良	緊急事態宣言解除に伴う外出自粛要請の緩和などの影響で、近隣の県からの観光客が徐々に増えてきている。（県南：観光事業）	
		やや良	複数運営しているホテルの一部で営業を停止していたが、7月から全てのホテルの営業を再開し足許の売上げが増加した。レストラン部門でも最近では売上げの増加が見られるものの、全体としては前年同月の水準に至っていない。（県央：ホテル業）	
		不変	新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出の自粛要請が緩和されたが、4月と同様にまだ客足が戻ってきていない。（沿岸：飲食業）	
		やや悪	今年は例年に比べ気温が低かったことにより、夏物の売れ行きが伸びず、苦戦を強いられた店舗が多かった。（沿岸：各種商品販売業）	
		やや悪	同ウイルスの影響で客数および成約数が減少したほか、先行きに対する不安から買い控えの動きが見られた。（県南：不動産取引業）	
		悪	同ウイルスの影響により客足が遠のいており、売上げが減少した。（沿岸：菓子小売業）	
	企業 動向 関連	やや良	大口案件を含めて公共工事の受注が増加したことから売上げが伸びた。（県北：建設業）	
		不変	受注の状況や売上げの増減に変化はなかった。（県央：情報通信業）	
	雇用 関連	やや良	4月の段階では合同企業説明会がほぼ中止となり採用情報もゼロに近い状態だったが、6月中旬から説明会が再開となり求人情報も増えた。（沿岸：学校就業担当）	
		やや悪	就職内定率が昨年の同時期に比べ2割程度となっている。3月から就職活動が始まったが、同ウイルスの影響により県を跨いだ移動が制限されるなど、面接や説明会が中止・延期となったことが影響したと考えられる。（県南：学校就業担当）	
	先 行 き	家計 動向 関連	やや良	県内および個人の旅行者が徐々に増える見込みである。「Go To キャンペーン」による地域経済の活性化に期待したい。（県南：飲食業）
			やや良	同ウイルスの影響により本業の売上げは減少傾向であることから、事業のもう一つの軸である介護事業の人員を増員して売上げの増加を図っており、順調に実績が伸びている。（県北：タクシー業）
不変			来店者数について変化はないと感じている。（沿岸：自動車整備販売業）	
不変			受注は順調に推移しており、今後も変わらないとみられる。（県南：建築工事業）	
やや悪			同ウイルス感染拡大の長期化により、今後は体力のある企業が生き残ると予想されるなか、アパレルなど一部取引先に事業縮小の動きが出始めている。秋口に向けて感染が再度拡大した場合、さらに深刻な状況に陥る可能性がある。（県央：百貨店）	
やや悪			同ウイルスの影響で法事や祭事が中止となったり、規模が縮小されたりしていることが影響し、飲食部門のみならず、仕出し部門の売上げも減少する見込みである。（県北：飲食業）	
悪			政府による「Go To キャンペーン」の効果は未知数である。同事業を利用するための条件などについて事業者だけでなく消費者も理解するのが困難であり、利用は進まず売上げの増加にはつながらないことが予想される。（沿岸：旅館業）	
悪			同ウイルスが収束するまでは予約が少ない状況が続くと予想されるなか、本県でも感染者が確認されたことから予約がさらに減少することが懸念される。（県南：ゴルフ場）	
企業 動向 関連		やや良	同ウイルスの影響は続く予想されるものの、新規案件は増加傾向である。（県央：税理士）	
		不変	小規模な案件の受注数は増加すると考えているが、トータルで見れば7月と同程度に落ち着くと予想している。（県北：建設業）	
雇用 関連	やや悪	小売業を中心に採用活動が順調な業種がある一方、サービス業など低調な業種もあり、総じて採用に慎重になる企業が増えると予想される。（県央：県就業支援担当）		
	悪	9月末にかけては臨時職員の募集が増える時期であるが、同ウイルスの影響により求人広告を抑える企業が多数を占めると予想している。（県央：新聞求人広告）		

## 【参考2】

# ＜ 調査要領 ＞

## 1. 調査内容

- (1) 景気の現状に対する判断
- (2) (1) の理由及び具体的状況の説明
- (3) 景気の先行きに対する判断
- (4) (3) の理由

※ (1)、(3) は5段階評価による回答とする。

## 2. 調査時期

2020年7月

## 3. 調査対象者・方法

県内の景気の動きを観察できる立場の方々112名への郵送、電話による聴取（内容は下表のとおり）。

### 調査対象者の分野・業種

分 野 (調査対象者数)		調査対象者の代表的な業種
家 計 動 向 関 連 （ 7 7 名）	小売関連 (30名)	百貨店、スーパー、コンビニ、 一般小売店、自動車販売など
	飲食関連 (17名)	飲食店、割烹・料理店、スナック、 外食チェーンなど
	サービス関連 (22名)	ホテル・旅館、クリーニング店、 ガソリンスタンド、タクシーなど
	住宅関連 (8名)	建設設計事務所、不動産販売、 住宅販売など
企業動向関連 (25名)		製造業、広告代理店、運輸業、 農林水産業など
雇用関連 (10名)		人材派遣、学校就業関係者、 求人広告など

### 調査対象地域の区分

地 域 (調査対象者数)	市町村
県央地域 (40名)	盛岡市、八幡平市、滝沢市、 雫石町、葛巻町、岩手町、 紫波町、矢巾町
県南地域 (43名)	花巻市、北上市、遠野市、 一関市、奥州市、西和賀町、 金ケ崎町、平泉町
沿岸地域 (19名)	宮古市、大船渡市、陸前高田市、 釜石市、住田町、大槌町、 山田町、岩泉町、田野畑村
県北地域 (10名)	久慈市、二戸市、普代村、 軽米町、野田村、九戸村、 洋野町、一戸町

## 4. 回答状況

有効回答数 100件

回収率 89.3%

## 5. 指数（DI値）の算出方法

5段階の判断に、それぞれ下表のとおり点数を与え、これらに各判断の構成比（%）を乗じてDI値（Diffusion Index）を算出する。DI値は50を目安としており、50を上回っていれば景気の上昇局面、下回っていれば下降局面と判断する。

### 指数（DI値）点数表

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+ 1.00	+ 0.75	+ 0.50	+ 0.25	0.00